

平成23年10月31日  
北九州市保健福祉局

(仮称) 北九州市第三次高齢者支援計画  
【試案】

総論

# 目 次

## 総 論

I 計画の策定にあたって	
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	5
II 高齢社会を取り巻く状況と課題	
1 高齢化の進展	6
2 高齢者の生活状況	9
3 高齢者の健康づくり・介護予防	12
4 高齢者の生きがいと社会参加	16
5 認知症対策について	19
6 家族介護者の状況	22
7 介護保険制度について	27
8 身近な相談と地域支援体制について	32
9 高齢者福祉に対する重点施策	35
III 第二次支援計画の成果と今後の課題	36
IV 計画の基本的な考え方	
1 計画の基本理念	37
2 基本目標と施策の方向性	38
3 高齢社会対策の基盤となる仕組みの充実	42
V 計画の推進体制	44
◇ 計画の体系図	46

## 各論（※ 分科会別に作成中）

### 《生きがい・介護予防分科会》

各論1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち〔基本目標1〕

.....

【施策の方向性1】健康づくり・介護予防の充実 .....

【施策の方向性2】生きがい・社会参加・地域活動の充実 .....

### 《認知症対策・権利擁護分科会》

各論2 高齢者と家族を大切にし共に支えるまち〔基本目標2〕

.....

【施策の方向性3】認知症対策の充実・強化 .....

【施策の方向性4】虐待防止・権利擁護の推進 .....

【施策の方向性5】高齢者を支える家族への支援 .....

### 《地域包括支援分科会・介護保険分科会》

各論3-1、2 住み慣れた地域で安心して暮らせるまち〔基本目標3〕

.....

【施策の方向性6】身近な相談と地域支援体制の構築 .....

【施策の方向性7】高齢者を支える介護サービス等の充実 .....

【施策の方向性8】安心して生活できる環境づくり .....

### 《介護保険分科会》

第5期介護保険事業計画の利用見込み等について（※検討中）

サービス利用見込み等 .....

介護保険の費用と保険料 .....

地域密着型サービス（施設・居住系）の必要利用定員 .....

地域密着型サービス利用量の見込み .....

## 総論 1 計画の策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

#### (1) 高齢化の進行

本市では、昭和60年の国勢調査を境に、全国平均を上回る速さで高齢化が進んでいます。高齢化の進展は今後も急速に進み、戦後のベビーブーム世代、いわゆる「団塊の世代」が高齢期に到達する平成27年には、およそ3.4人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されます。

#### (2) これまでの取組み

このような状況に対応するため、本市では、平成5年4月に、高齢社会へ向けたまちづくりのマスタープランとして「北九州市高齢化社会対策総合計画」を策定しました。この計画を具体化するため、平成6年3月に「第一次実施計画」を策定し、これ以降、平成21年3月の「第二次北九州市高齢者支援計画（計画期間：平成21年度～平成23年度、以下「第二次支援計画」という）」まで、あわせて5次にわたる実施計画を順次策定し、総合的な高齢社会対策を進めてきました。

また、高齢化が進む地域の現状を踏まえ、地域で暮らし活動するすべての人々と行政が一体となって地域福祉のまちづくりを推進するため、地域社会全体で共有する指針として、平成23年2月に「北九州市の地域福祉2011～2020（北九州市地域福祉計画）」を策定しました。

#### (3) 高齢者と地域を取り巻く課題

高齢化の更なる進行に伴い、介護が必要な高齢者や認知症高齢者の増加、これに伴う家族介護者の負担感や不安への対応が課題となっています。

また、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみ世帯の増加に加え、価値観の多様化などに伴い、地域の見守り・支え合い機能の低下や、高齢者の“家族や地域からの孤立”といった問題も顕在化しつつあります。

さらに、平成23年6月の介護保険制度改正においては、高齢者が、介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域において継続して生活できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援の5つのサービスを包括的かつ継続的に提供することで「地域包括ケア」の実現を図ることとしています。

本市では、高齢社会対策の重要課題として、保健・医療・福祉関係者と地域住民や

地域で活動する団体が連携・協働しながら、支援の必要な人を互いに支え合う“ネットワークづくり”を進めてきました。今後とも高齢者の尊厳を守りながら、住み慣れた家庭や地域で安心して生活できるよう、本市のネットワークを活かした「地域ケア」の推進を図る必要があります。

一方で、本市では多くの高齢者が地域活動の担い手として元気に活躍されています。このため、次の世代へ向けて、地域のコミュニティを維持し、さらなる向上を図るためには、高齢者の皆さんが健康を維持しながら、それぞれができる範囲で「地域社会の担い手」として幅広く活躍できる環境づくりを進める必要があります。

#### **（４）北九州市らしい高齢社会対策の更なる推進**

このような状況を踏まえ、本市がこれまで取り組んできた高齢社会対策の更なる推進を図るため、「第三次北九州市高齢者支援計画（以下「第三次支援計画」という）を策定するものです。

## 2 計画の位置づけ

### (1) 総合計画の分野別計画として策定

この第三次支援計画は、誰もが元気で安心して地域で生活できるまちづくりを目指した、本市の基本構想・基本計画である「元気発進！北九州」プランに基づく分野別の計画として位置づけられるものです。

したがって、基本計画の各分野別計画である「北九州市地域福祉計画」や「北九州市障害者支援計画」、「元気発進！子どもプラン（北九州市次世代育成行動計画）」などの計画と相互に連携を図るとともに、住宅・雇用・教育・コミュニティ・防災などの関連施策を盛りこんだ“本市における高齢社会対策の基本計画”として策定するものです。

### (2) 法定計画として策定

この第三次支援計画は、介護保険法（第117条）に規定された、介護保険の各サービスの見込量やその確保のための方策などを定めた「介護保険事業計画（第5期）」及び老人福祉法（第20条の8）に規定された老人福祉事業全般に関する計画である「老人福祉計画」を包含した計画であり、計画の策定にあたっては、第二次支援計画に引き続き、「団塊の世代」が高齢期に達する平成27年の高齢者の姿を念頭に置いて、検討を行いました。

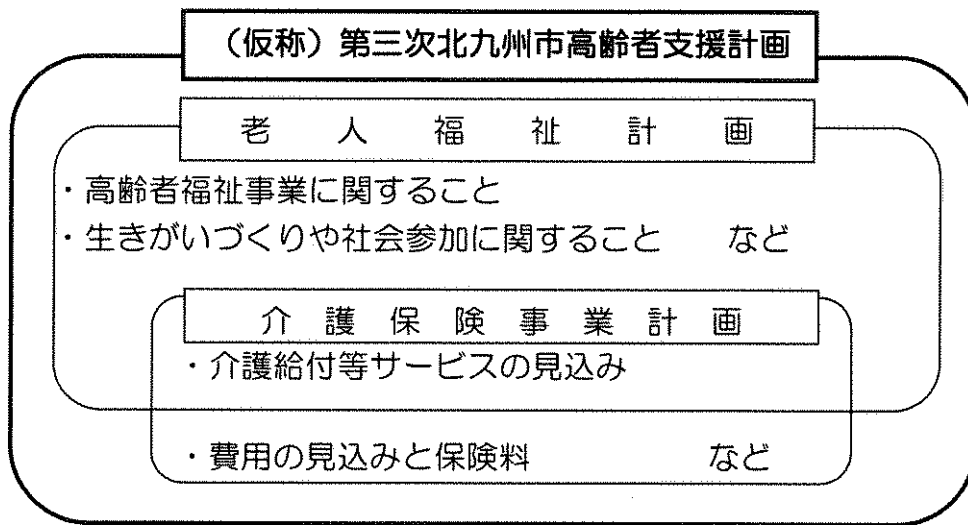
### (3) 第二次支援計画の成果や課題などを踏まえて策定

この第三次支援計画は、“地域包括支援センターを中心とした地域ケアの推進”や“健康づくり・介護予防の推進”、“総合的な認知症対策”など、第二次支援計画の成果や課題などを踏まえ、北九州市らしい高齢社会対策を推進するための計画として策定するものです。

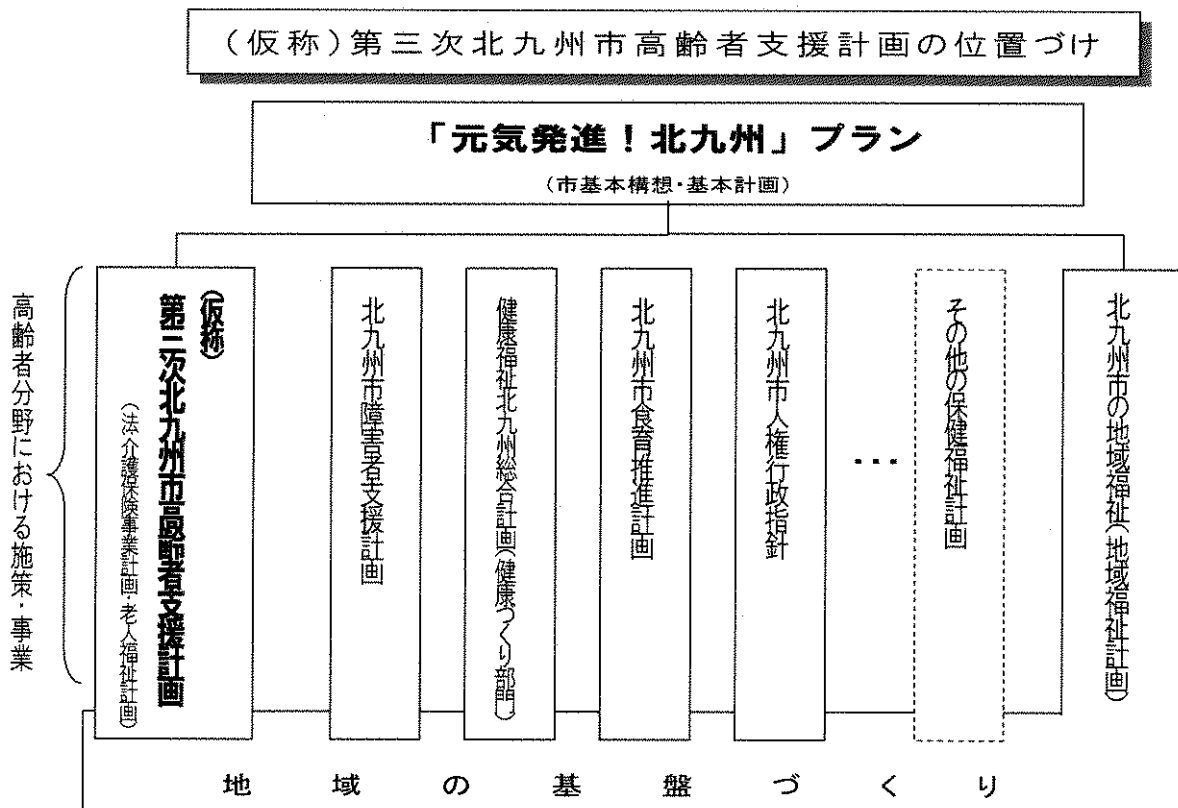
### (4) 市民、関係団体などの幅広い意見を踏まえて策定

この第三次支援計画は、保健・医療・福祉関係者や学識経験者、公募による市民代表からなる「北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会」で出された意見や、平成22年度に行った「北九州市高齢者等実態調査」、及び第三次支援計画素案作成前に開催した「地域ふれあいトーク」や「関係団体の意見を聴く会」における意見、計画素案に対する「市民意見」などを踏まえて策定するものです。

〔図1-1 国の法定計画との関係〕



〔図1-2 第三次高齢者支援計画の位置づけ〕



### 3 計画の期間

この第三次支援計画の期間は、平成24年度から平成26年度までの3年間とします。

〔図1-3 第三次高齢者支援計画の期間〕

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
北九州市 基本構想 基本計画	「元気発進！北九州」プラン (基本計画はH32年度まで12年間)					
地域福祉	健康福祉北九州 総合計画 (H18年度～H22年度)		北九州市の地域福祉2011～2020 (H32年度まで10年間)			
高齢者 支援	第二次北九州市高齢者支援計画 (H21年度～H23年度)			第三次北九州市高齢者支援計画 (H24年度～H26年度)		

#### 〈参考〉 計画期間の根拠について

「介護保険事業計画」は3年を1期として作成することが介護保険法第117条第1項に規定されています。また、「介護保険事業計画」と「老人福祉計画」は、一体のものとして作成することが介護保険法第117条第4項及び老人福祉法第20条の8第6項に規定されています。

以上を踏まえ、第三次支援計画の期間は3年としています。



## 総論 2 高齢社会を取り巻く状況と課題

### 1 高齢化の進展

#### (1) 高齢化率の推移及び推計

本市の高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合）は、平成23年3月末時点で24.9%と、人口の約4.0人に1人が高齢者という状況であり、政令指定都市の中で最も高い状況が続いています。

今後、平成27年には約3.4人に1人が高齢者になると予測され、その後も高齢化は更に進むと見られています。

#### 【 図 2-1 本市と全国の高齢化率の推移及び推計 】

#### (2) 75歳以上の高齢者（後期高齢者）の増加

高齢者に占める75歳以上の人の割合は、平成22年には半数近くに達し、将来的には75歳以上の人の割合の方が高くなると見られています。75歳以上の高齢者の増加に伴い、認知症や寝たきりなどの要支援・要介護高齢者が増加するとともに、介護する家族などの負担も増加することが考えられます。

#### 【 図 2-2 前期高齢者及び後期高齢者の推移及び推計 】

#### 【 表 2-1 高齢者数及び高齢化率の政令指定都市比較 】

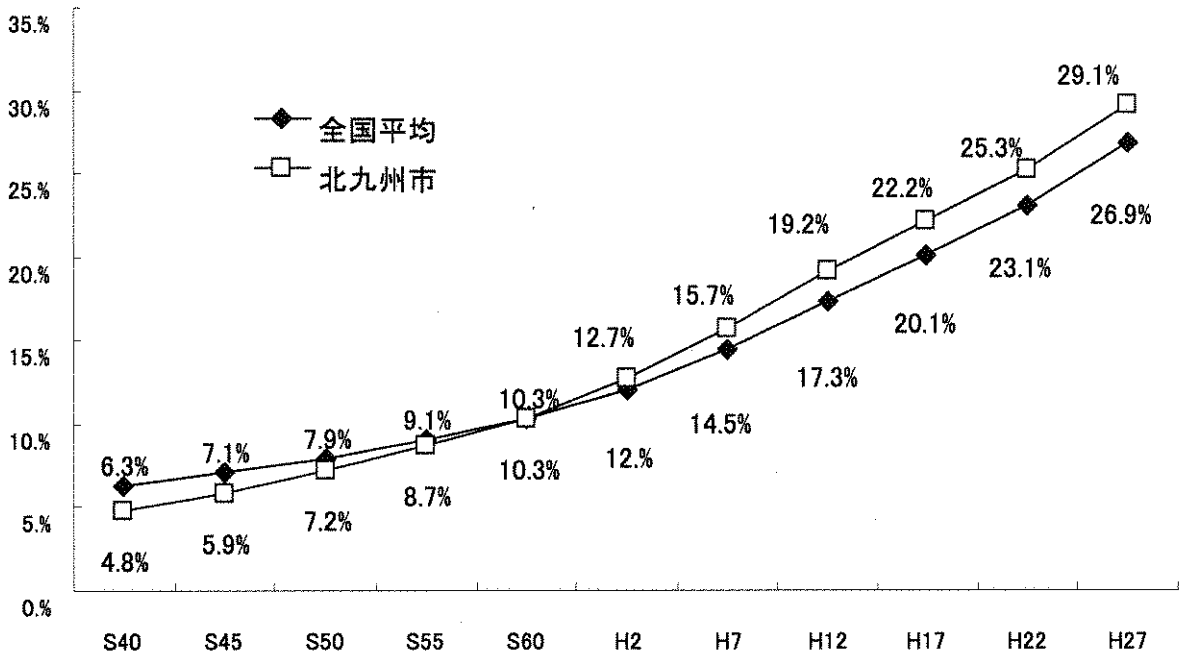
#### (3) 高齢者だけの世帯の増加

平成12年以降、65歳以上の高齢者のいる世帯では、5割以上の世帯が高齢者だけで生活しており、高齢者の単身世帯も増加しています。

このような変化に伴い、家庭における支え合い機能の低下はもとより、高齢者の地域における孤立にも結びつくものと考えられます。このため、介護サービスなどの社会的支援とともに、身近な住民同士の交流や、地域における見守り・支え合いを今後とも大切にしていける必要があります。

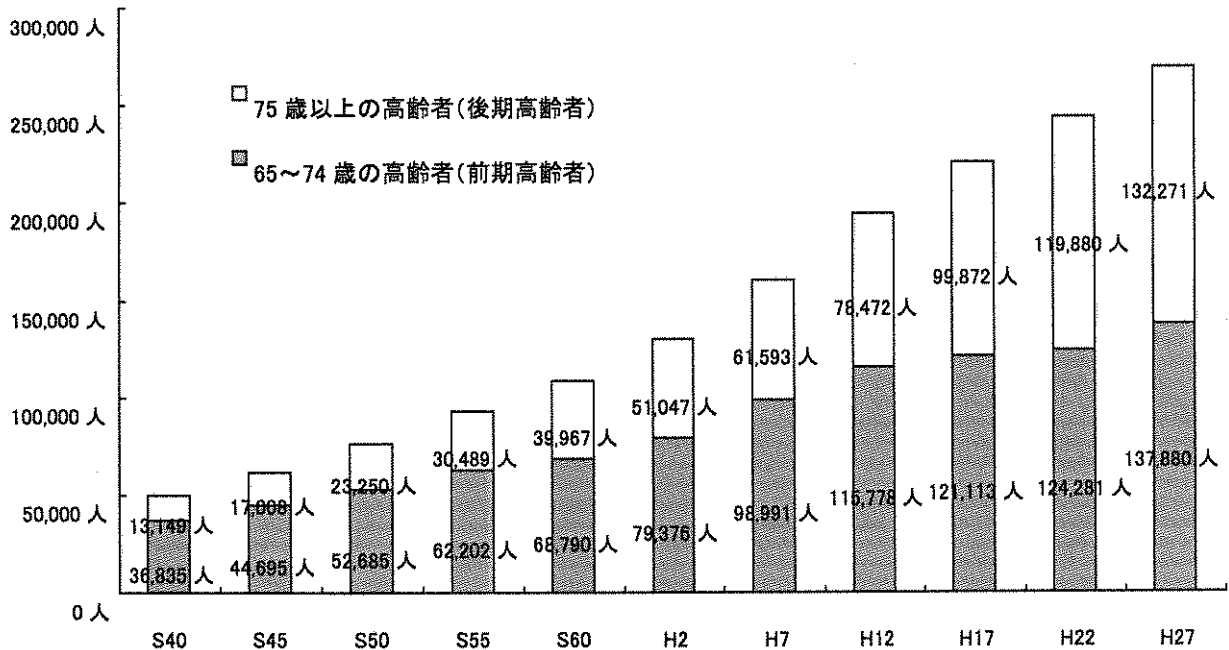
#### 【 図 2-3 高齢者のいる世帯の家族類型別世帯の割合の推移 】

【 図 2-1 本市と全国の高齢化率の推移及び推計 】



〔出所〕全国は平成 17 年までは総務省「国勢調査」、平成 22 年度は総務省推計人口、27 年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 18 年 12 月)」の中位推計。  
北九州市は平成 17 年度までは「国勢調査」、平成 22 年、27 年は北九州市保健福祉局による独自推計

【 図 2-2 前期高齢者及び後期高齢者の推移及び推計 】



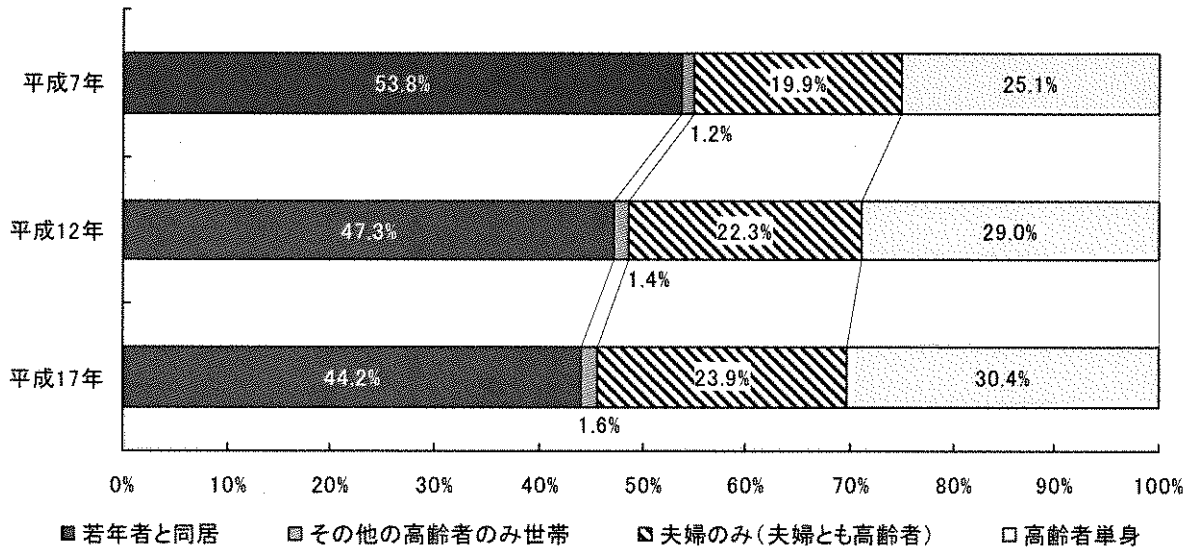
〔出所〕平成 17 年度までは「国勢調査」、平成 22 年、27 年は北九州市保健福祉局による独自推計

【 表 2-1 高齢者数及び高齢化率の政令指定都市比較 】

政令指定都市	総人口	65歳以上人口	高齢化率	後期高齢者 (75歳以上)人口	後期高齢者の割合
北九州市	977,950	242,207	24.8%	117,645	12.0%
札幌市	1,891,494	379,783	20.1%	175,709	9.3%
仙台市	1,010,256	188,341	18.6%	87,606	8.7%
さいたま市	1,209,234	227,100	18.8%	93,048	7.7%
千葉市	932,421	188,051	20.2%	72,162	7.7%
横浜市	3,630,582	716,942	19.8%	310,198	8.5%
川崎市	1,373,851	230,188	16.8%	99,314	7.2%
相模原市	696,994	132,514	19.0%	49,985	7.2%
新潟市	803,421	185,362	23.1%	92,527	11.5%
静岡市	717,578	174,708	24.3%	81,870	11.4%
浜松市	792,446	179,163	22.6%	87,117	11.0%
名古屋市	2,178,272	462,180	21.2%	208,367	9.6%
京都市	1,384,896	321,752	23.2%	151,960	11.0%
大阪市	2,534,176	571,975	22.6%	258,517	10.2%
堺市	837,680	184,338	22.0%	75,082	9.0%
神戸市	1,511,351	341,817	22.6%	159,579	10.6%
岡山市	688,996	147,797	21.5%	72,254	10.5%
広島市	1,157,495	225,926	19.5%	101,690	8.8%
福岡市	1,396,789	243,593	17.4%	113,267	8.1%
全国	127,057,858	28,815,916	22.7%	13,729,812	10.8%

〔出所〕北九州市は「住民基本台帳」(平成22年3月31日現在)、その他の政令指定都市及び全国は「住民基本台帳 人口集計」(平成22年3月31日現在)

【 図 2-3 高齢者のいる世帯の家族類型別世帯の割合の推移 】



〔出所〕総務省「国勢調査」

## 2 高齢者の生活状況

### (1) 高齢者の暮らし向き

「平成22年度北九州市高齢者等実態調査」によると、現在の暮らし向きについては、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」が『一般高齢者』で55.5%、『在宅高齢者』で53.0%とそれぞれ最も多くなっています。

#### 【 図2-4 高齢者の暮らし向き 】

### (2) 住居の形態について

現在居住している住居の形態については、『一般高齢者』と『在宅高齢者』で大きな差はなく、「一戸建て（持ち家）」が『一般高齢者』で63.5%、『在宅高齢者』で60.5%と最も大きくなっています。

『若年者』も「一戸建て（持ち家）」が最も大きくなっていますが、『在宅高齢者』や『一般高齢者』と比べると割合は若干小さくなっています。

#### 【 図2-5 現在の住居形態 】

### (3) 近所付き合いの程度

高齢者の近所付き合いの程度についてみると、「何か困ったときにも助け合える親しい人がいる」が『一般高齢者』で36.5%、『在宅高齢者』で25.0%と最も多くなっています。

#### 【 図2-6 近所付き合いの程度 】

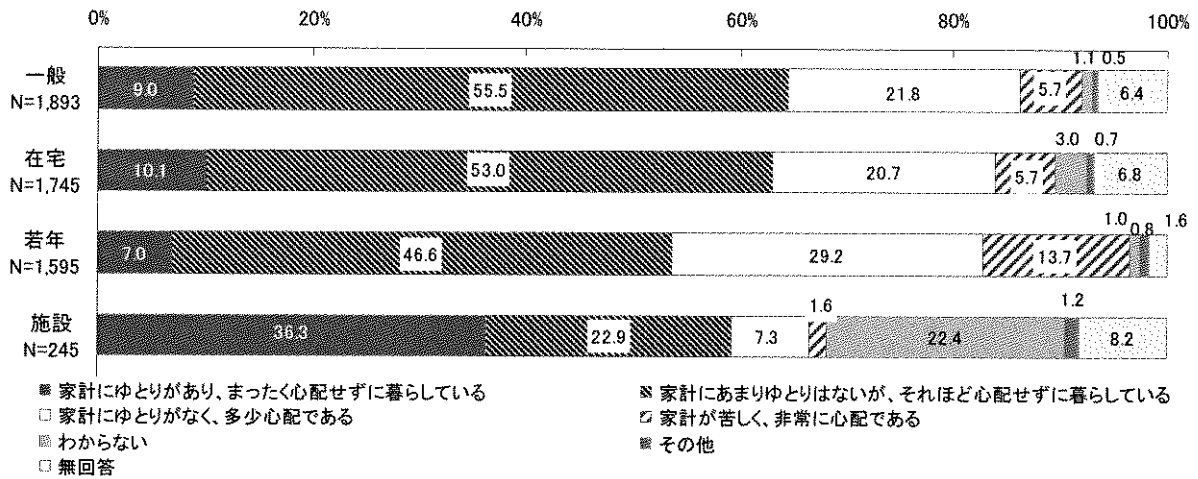
### (4) 地域における支え合いの意識

平成21年度に行った「地域福祉に関する市民意識調査」によると、地域での支え合いが「大切・必要である」と考えている人はあわせて83.9%に達しています。

このことから、今後とも住民同士のつながりを大切にし、市民一人ひとりが地域の一員として元気に活躍できる環境づくりを進めていく必要があります。

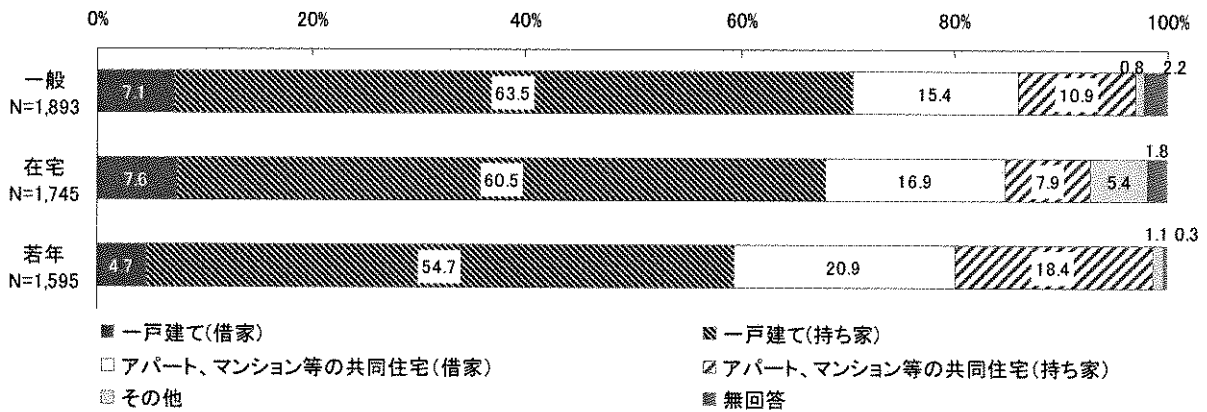
#### 【 図2-7 地域における支え合いの意識 】

【 図 2-4 高齢者の暮らし向き 】



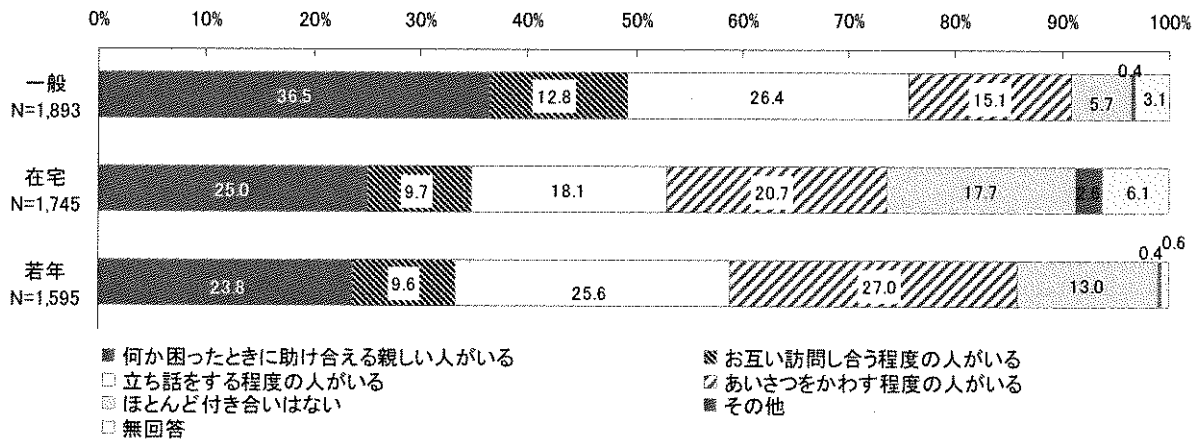
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-5 現在の住居形態 】



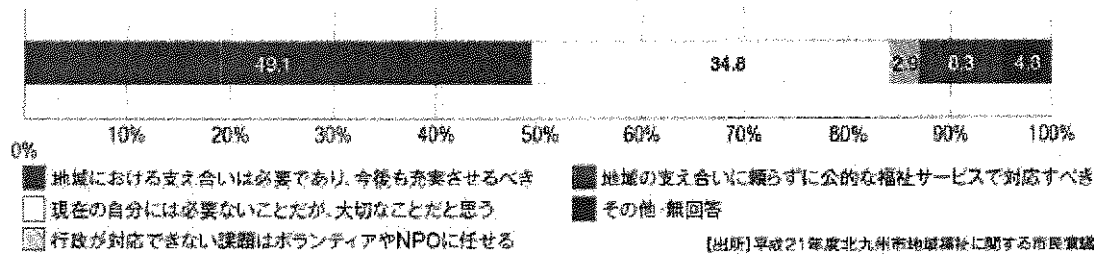
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-6 近所付き合いの程度 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-7 地域における支え合いの意識 】



### 3 高齢者の健康づくり・介護予防

#### (1) 高齢者の健康状態

「平成22年度北九州市高齢者等実態調査」によると、『一般高齢者』のうち自分の健康状態について、「普通」「まあよい」「よい」と考えている人は、あわせて77.6%に達しています。

#### 【 図2-8 自分の健康状態 】

#### (2) 特定健診・特定保健指導の実施状況

北九州市国民健康保険における、高血圧や糖尿病等の生活習慣病予防を目的とした特定健診の受診率は、平成21年度は前年度より3.6ポイント上昇の25.6%（19政令市中7位）となっています。また、健診後実施する生活習慣改善のための特定保健指導実施率は49.8%（19政令市中2位）となっています。

#### 【 図2-8-1 特定健診・特定保健指導実施状況（平成21年度）】

#### (3) 要介護認定を受けていない人の数

65歳以上の高齢者のうち、要支援・要介護認定を受けている人は約5万人で、高齢者人口の2割にあたります。その一方で、高齢者全体のおよそ8割にあたる19万人の人は要介護認定を受けていません。

今後は、こうした高齢者が引き続き健康づくりや介護予防に主体的に取り組むとともに、見守りや交流など地域活動の担い手としても幅広く活躍できる環境づくりを進めていく必要があります。

#### 【 図2-9 要介護認定者数（平成23年4月時点） 】

#### (4) 介護予防事業（二次予防事業）の状況

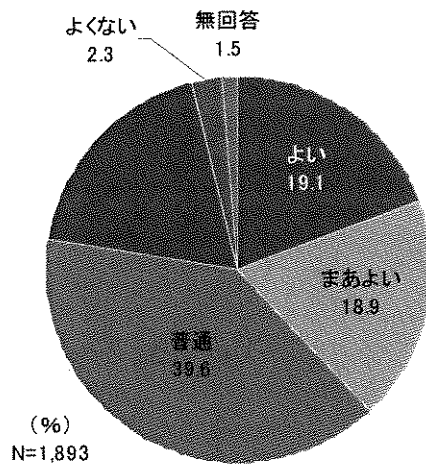
要介護状態等となるおそれの高い高齢者を対象とした介護予防事業（二次予防事業）については、対象者の早期把握・支援に努めた結果、対象者数やケアマネジメント数が、いずれも大幅に増加しています。

また、二次予防事業の参加者に、事業に参加する前後に評価を行った結果、9割以上の参加者の生活機能の状態が「維持・改善」されました。

#### 【 表2-10 二次予防事業対象者決定者数とケアマネジメント数 】

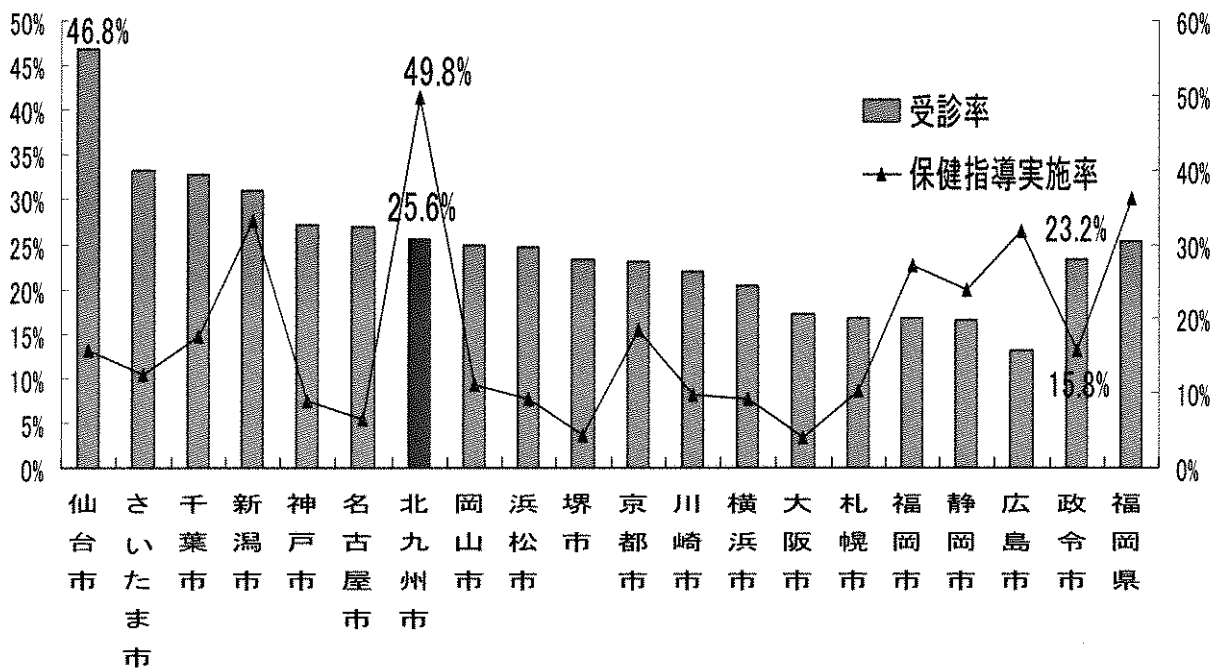
#### 【 表2-11 介護予防事業の効果 】

【 図 2-8 自分の健康状態 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-8-1 特定健診・特定保健指導実施状況 (平成21年度) 】



【出所】保健福祉局 資料



【 図 2-9 要介護認定者数（平成23年4月時点） 】

高齢者人口(65歳以上)	244,569人
要介護・要支援認定者 高齢者人口に占める割合	49,161人 20.1%
要介護認定を受けていない高齢者 高齢者人口に占める割合	195,408人 79.9%

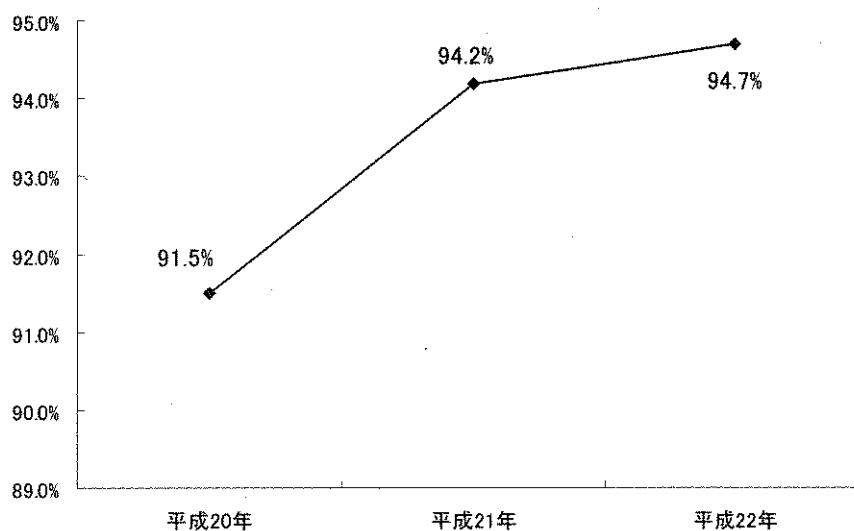
【出所】 保健福祉局 資料

【 表 2-10 二次予防事業対象者決定者数とケアマネジメント数 】

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
決定者数	3,464人	7,760人	9,399人
ケアマネジメント数	1,243人	1,690人	2,333人

【出所】 保健福祉局 資料

【 表 2-11 介護予防事業の効果 】



※二次予防事業の参加者のうち、評価ができたものに対する割合

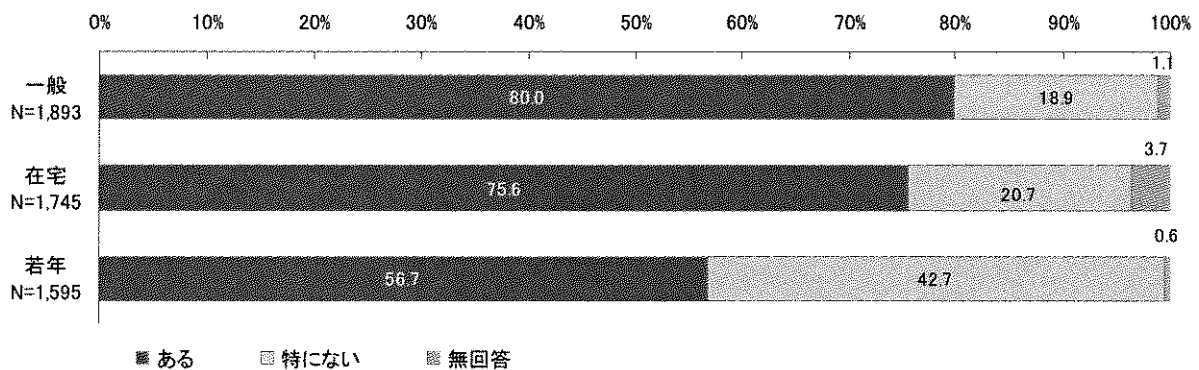
【出所】 保健福祉局 資料

### (5) 介護予防の取り組み状況・取り組みをしない理由

健康づくりや介護予防のための日頃からの取り組みについては、およそ8割の高齢者が「ある」と回答しています。

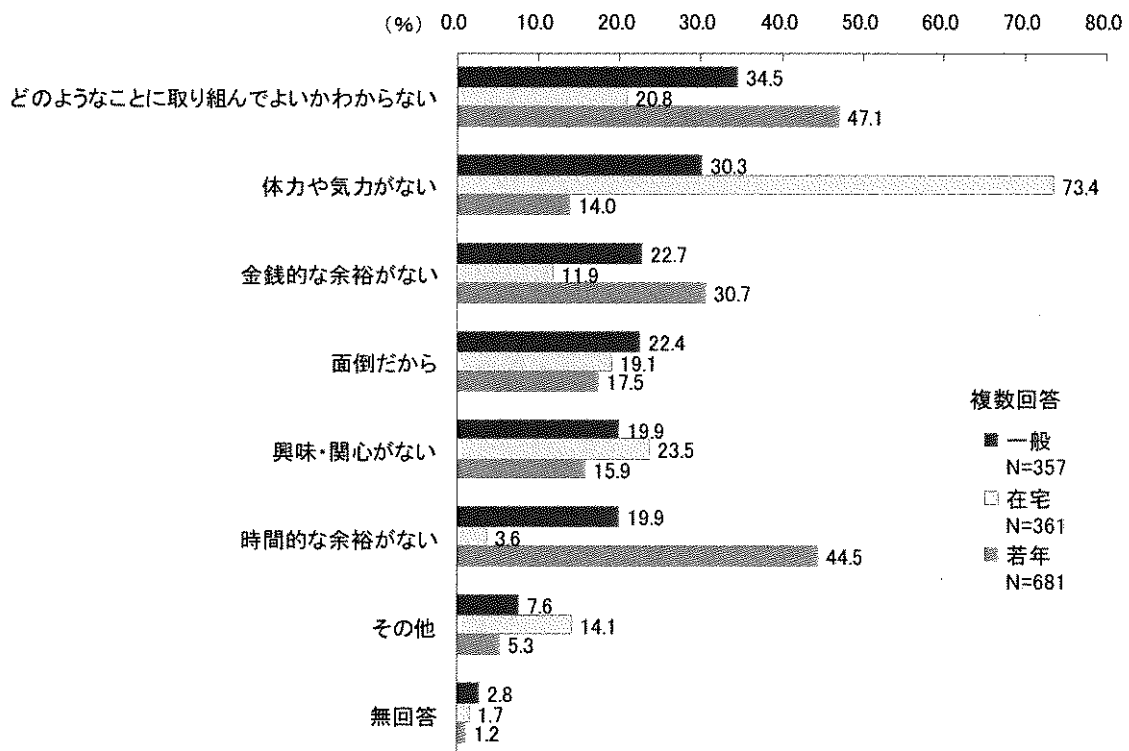
「特にない」と回答した高齢者について、その理由を尋ねたところ、一般高齢者では「どのようなことに取り組みばよいかわからない」が34.5%と最も多くなっています。また在宅高齢者では「体力・気力がない」が最も多く、73.4%に達しています。

【 図 2-12 「介護予防」の取り組みの有無 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-13 「介護予防」の取り組みをしない理由 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

## 4 高齢者の生きがいと社会参加

### (1) 高齢者の社会貢献について

「平成22年度北九州市高齢者等実態調査」によると、一般高齢者のうち、「高齢者であっても、自分のできる範囲で社会貢献すべき」と考えている人は62.0%に達しています。

また「積極的に社会貢献すべき」と考えている人は6.1%と、あわせて7割近くの高齢者が、高齢者であっても社会貢献すべきであると考えています。

#### 【 図2-14 高齢者の社会貢献について 】

### (2) 地域活動・ボランティア活動への参加状況

次に、この1年間に自治会や老人クラブなどの地域活動に参加したかどうかを尋ねたところ、「参加したことがある」という人は40.9%でした。また、ボランティア活動について、この1年間に「参加したことがある」という人は27.4%でした。

このことから、高齢者の社会貢献に対する意欲が実際の活動に結びつくよう、社会参加への支援に取り組む必要があります。

#### 【 図2-15 過去1年間の地域活動への参加経験 】

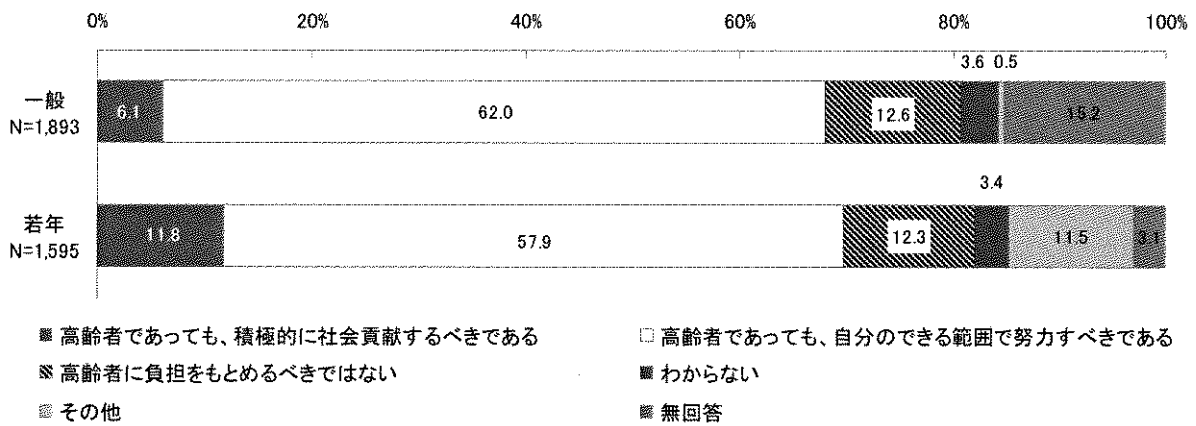
#### 【 図2-16 過去1年間のボランティア活動への参加経験 】

### (3) 望ましい社会参加活動

高齢者の社会参加として「望ましい」と考える活動については、「趣味・スポーツを楽しむこと」が一般高齢者で30.5%、在宅高齢者で22.5%と最も多く、これに次いで「元気な限り働くこと」が一般高齢者で28.3%、在宅高齢者で17.7%となっています。

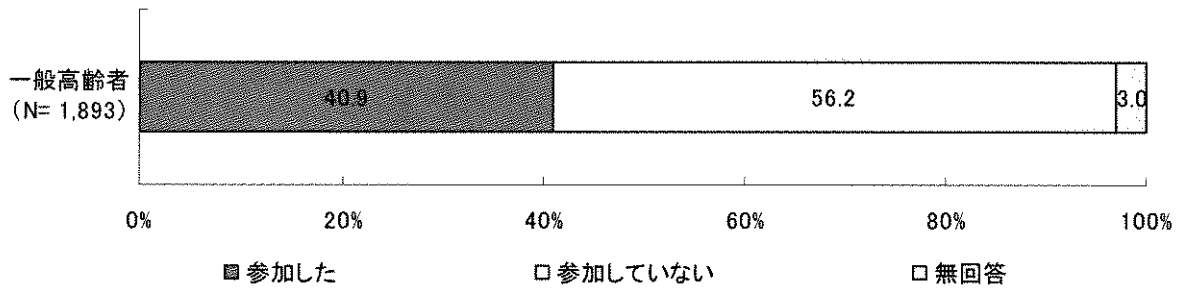
#### 【 図2-17 高齢者の望ましい社会参加活動 】

【 図2-14 高齢者の社会貢献について 】



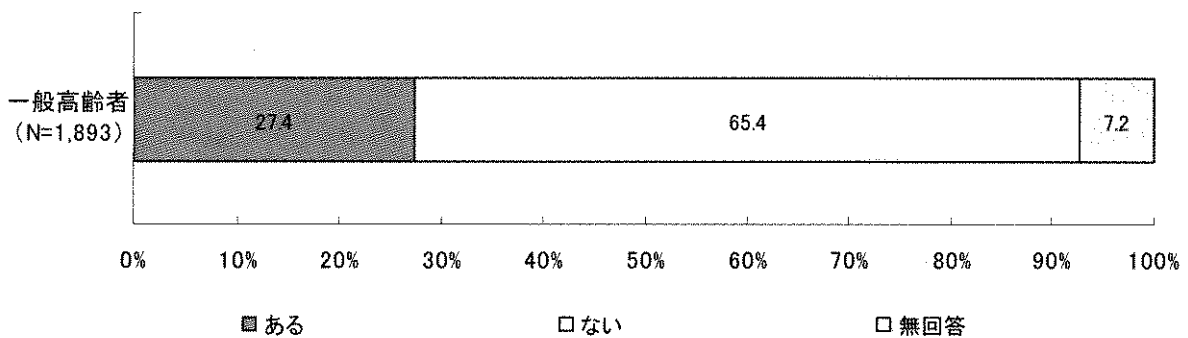
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図2-15 過去1年間の地域活動への参加経験 】



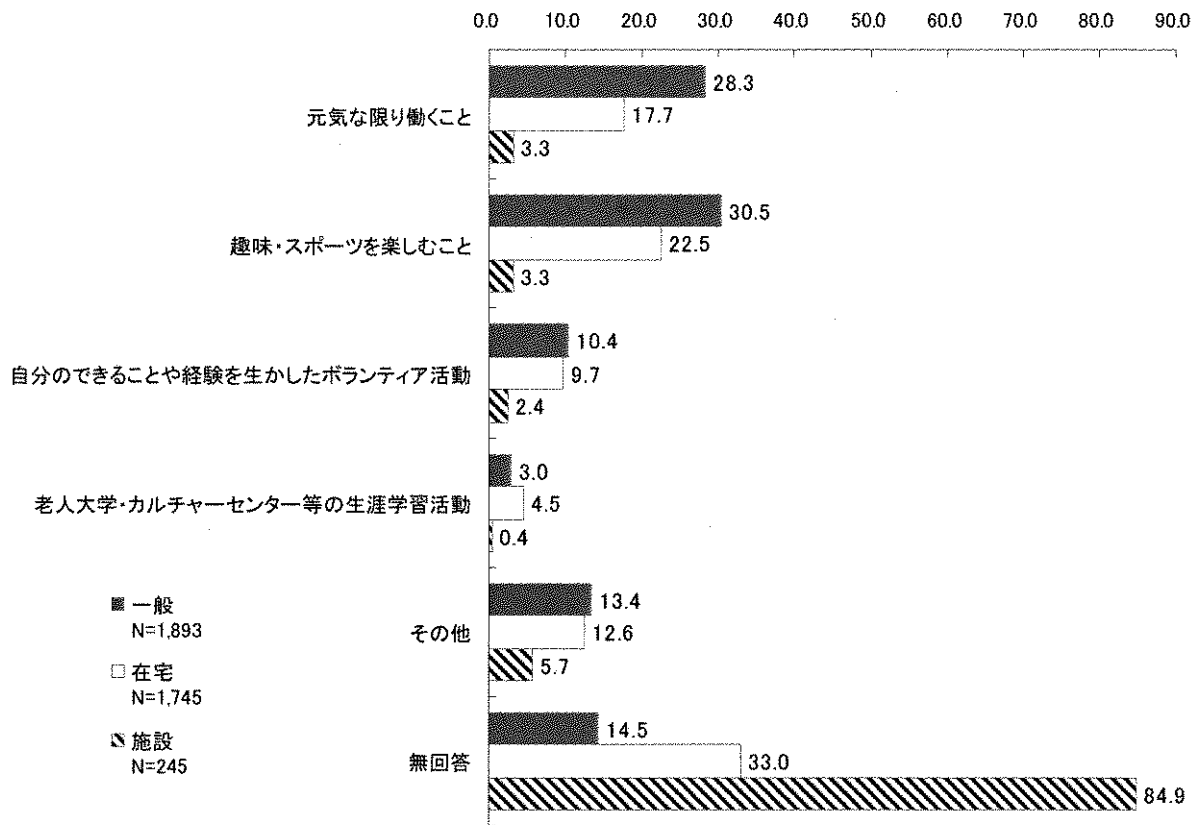
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図2-16 過去1年間のボランティア活動への参加経験 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図2-17 高齢者の望ましい社会参加活動 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

## 5 認知症対策について

### (1) 認知症高齢者数の推移

高齢化の進行に伴い、認知症高齢者の数、及び高齢者人口に占める認知症高齢者の割合（出現率）は、ともに増加しており、今後もこうした傾向が続くものと考えられます。

【 図 2-18 認知症高齢者数及び出現率の推移 】

《参考》 認知症高齢者の日常生活自立度

### (2) 認知症に対する不安

高齢者が認知症について不安に感じることは、「家族に迷惑をかけそうで不安」が 44.5%と最も高く、次いで「認知症になっても、自宅で生活が続けられるか不安である」が 29.7%と、多くの方が、「家族への負担」や「在宅での生活」について不安を感じています。

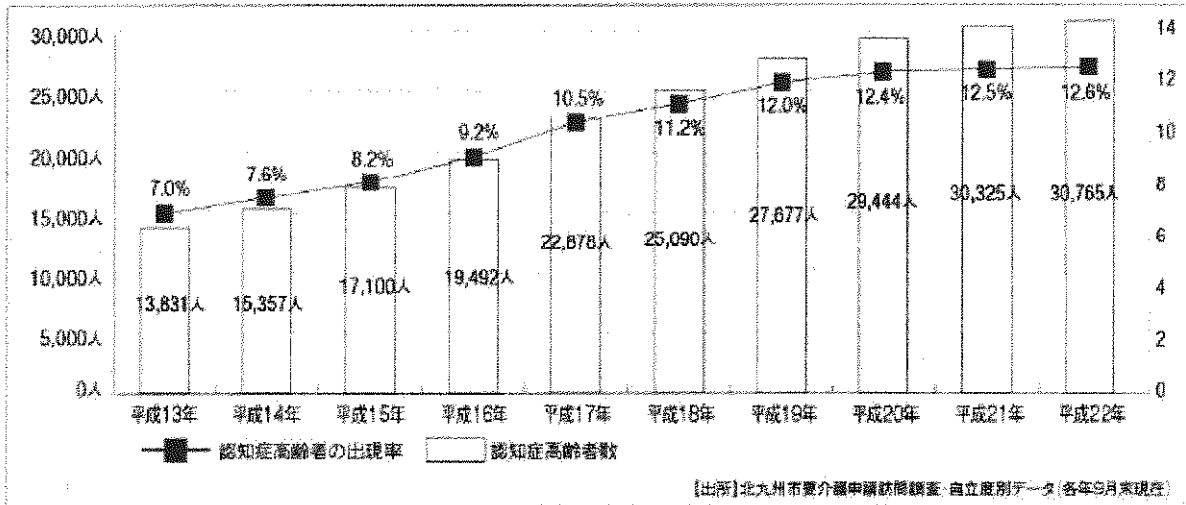
【 図 2-19 「認知症」と聞いて不安に感じること 】

### (3) 認知症対策として力を入れるべき施策

認知症対策として力を入れるべき施策については、「かかりつけ医から専門医療機関への連絡体制づくり」が一般高齢者で 49.8%と最も高く、次いで「早期の発見と予防・専門医療へのつなぎ」が 48.2%となっています。

【 図 2-20 認知症対策として力を入れるべき施策 】

【 図 2-18 認知症高齢者数及び出現率の推移 】

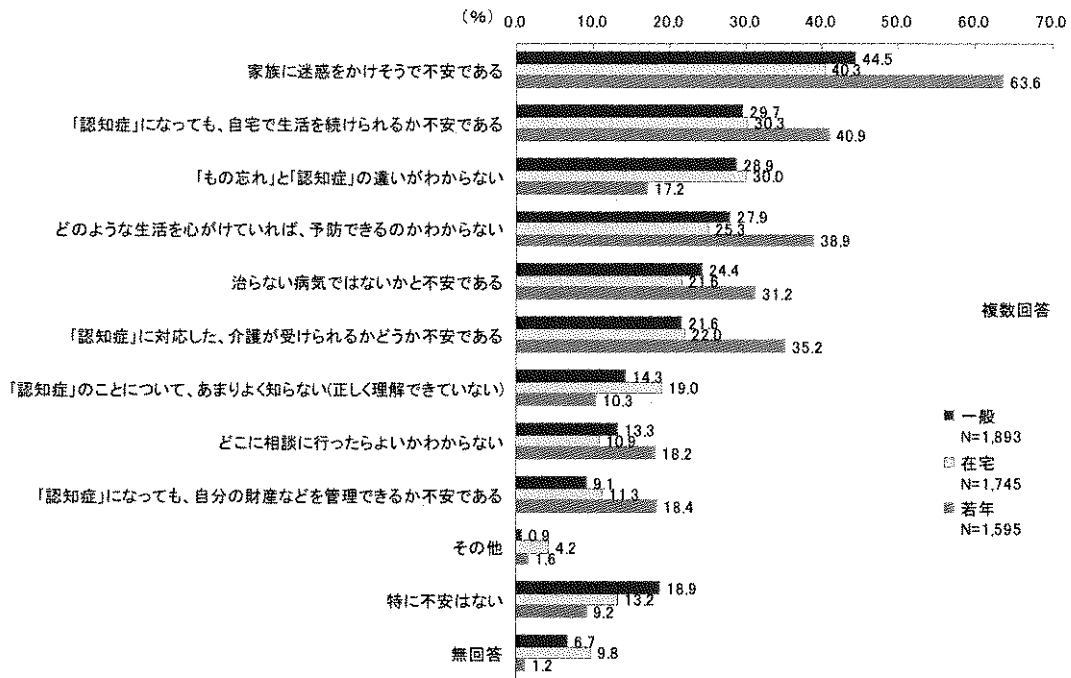


※「認知症高齢者」・・・日常生活自立度Ⅱ以上

＜参考＞ 認知症高齢者の日常生活自立度

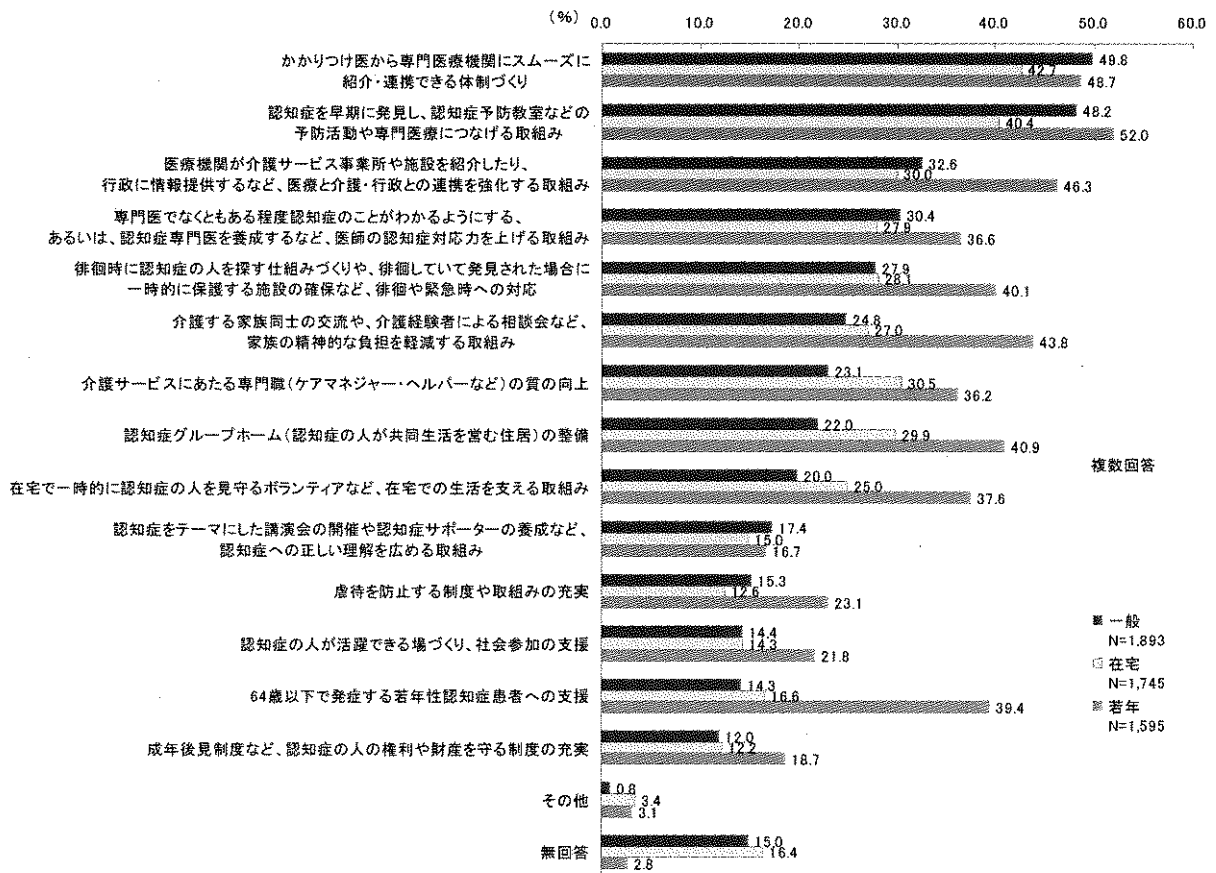
I	何らかの認知症を有するが、日常生活はほぼ自立している。
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動などが多少見られるが、誰かが注意していれば自立できる。
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動などが見られ、介護を必要とする。
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動などが頻繁に見られ、介護を必要とする。
V	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専医療を必要とする。

【 図 2-19 「認知症」と聞いて不安に感じること 】



【出所】平成 22 年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-20 認知症対策として力を入れるべき施策 】



【出所】平成 22 年度 北九州市高齢者実態調査



## 6 家族介護者の状況

### (1) 介護が必要になったときの生活場所

「平成22年度北九州市高齢者等実態調査」においては、47.8%の高齢者が、「介護が必要になっても、ずっと在宅で生活したい」と回答しています。

また、実際に在宅で高齢者の介護を行っている家族が、今後希望する介護のあり方についても「自宅で介護したい」が34.3%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入所させたい」が14.4%となっています。

【 図2-21 高齢者が希望する生活場所 】

【 図2-22 家族が希望する介護のあり方 】

### (2) 家族介護者の属性・性別・年齢

在宅で高齢者の介護を主に行っている人は、「子」が39.0%と最も多く、次いで「妻」(13.2%)、夫(10.5%)、「子の配偶者」(9.0%)の順となっています。

また、家族介護者の6割近くが女性であり、年齢については、65歳以上の人が全体の約4割を占めています。

【 図2-23 主な介護者の続柄 】

【 図2-24 主な介護者の年齢 】

【 図2-25 主な介護者の性別 】

### (3) 介護をするうえで困っていること

高齢者を介護する家族のうち「介護するうえで困ったことがある」と回答した人は58.7%に達しています。

困っていることの内容としては「将来に不安を感じている」が63.9%と最も多く、次いで「介護をする人が他にいない」が49.3%、「身体的な負担が大きい」が44.4%と、様々な悩みを抱えながら高齢者を支えていることが伺えます。

【 図2-26 介護をするうえで困っていること 】

【 図2-27 困っていることの内容 】

#### (4) 虐待に至る要因として考えられること

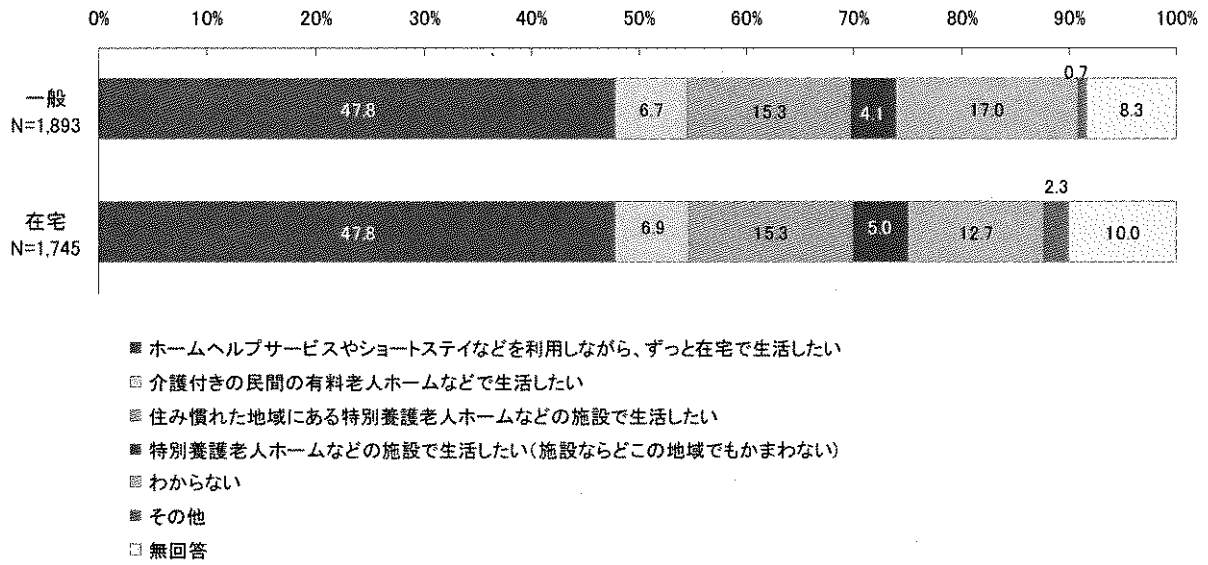
介護を行っている高齢者への虐待に至る危険性については、「虐待などに至る危険性はない」と感じている人が41.8%と最も多く、「今後、介護が続けば虐待などに至る危険性があるのではと思う」が6.3%、「すでに虐待にあたる行為をしているのではないか」が0.9%となっています。

また、虐待に至る要因として考えられることについては、「介護者の介護疲れや精神的ストレス」が54.1%と最も多く、次いで「高齢者本人に認知症の周辺症状がある」が34.1%、「介護者が一人で介護を抱え込んでいる」が30.9%となっています。

【 図2-28 虐待に至る危険性について 】

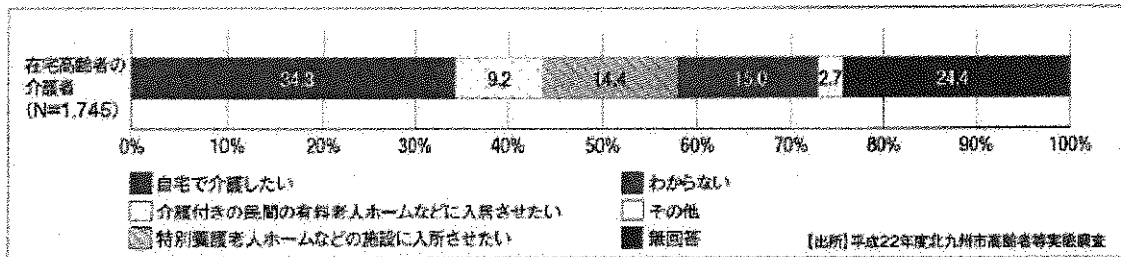
【 図2-29 虐待に至る要因として考えられること 】

【 図 2-21 高齢者が希望する生活場所 】



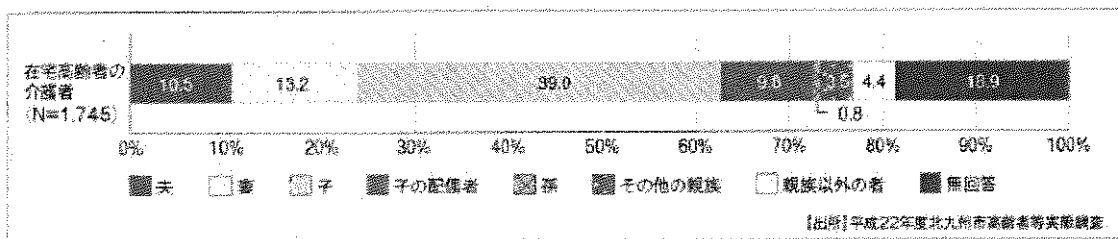
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-22 家族が希望する介護のあり方 】



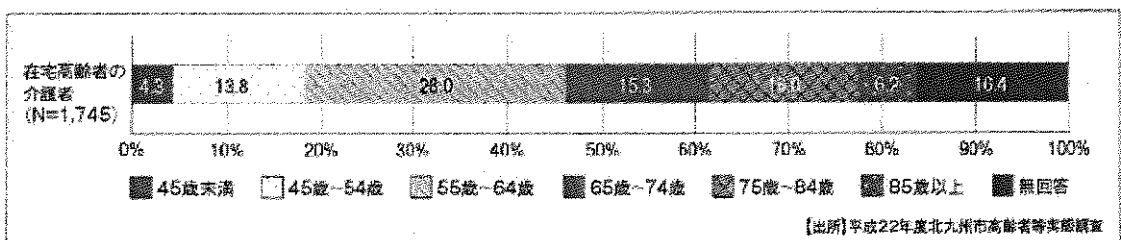
【出所】平成22年度北九州市高齢者実態調査

【 図 2-23 主な介護者の続柄 】



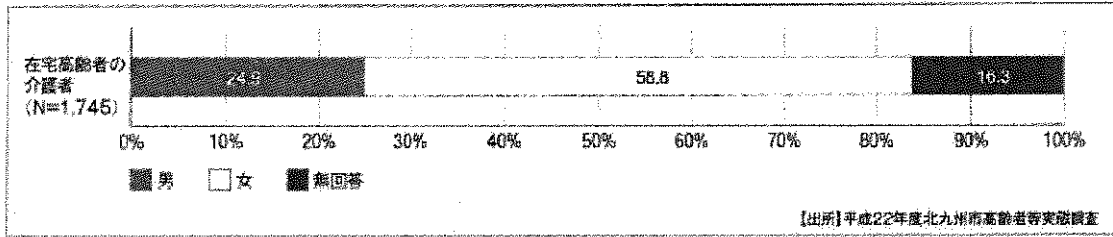
【出所】平成22年度北九州市高齢者実態調査

【 図 2-24 主な介護者の年齢 】

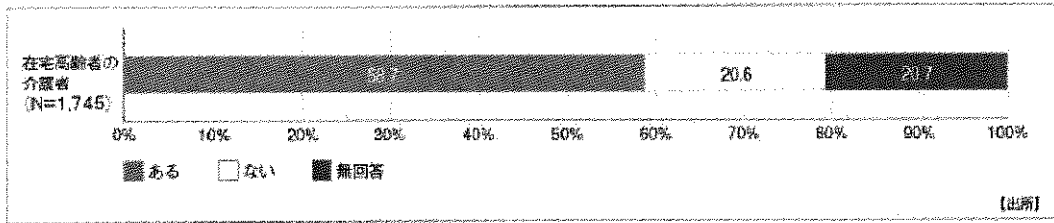


【出所】平成22年度北九州市高齢者実態調査

【 図 2-25 主な介護者の性別 】

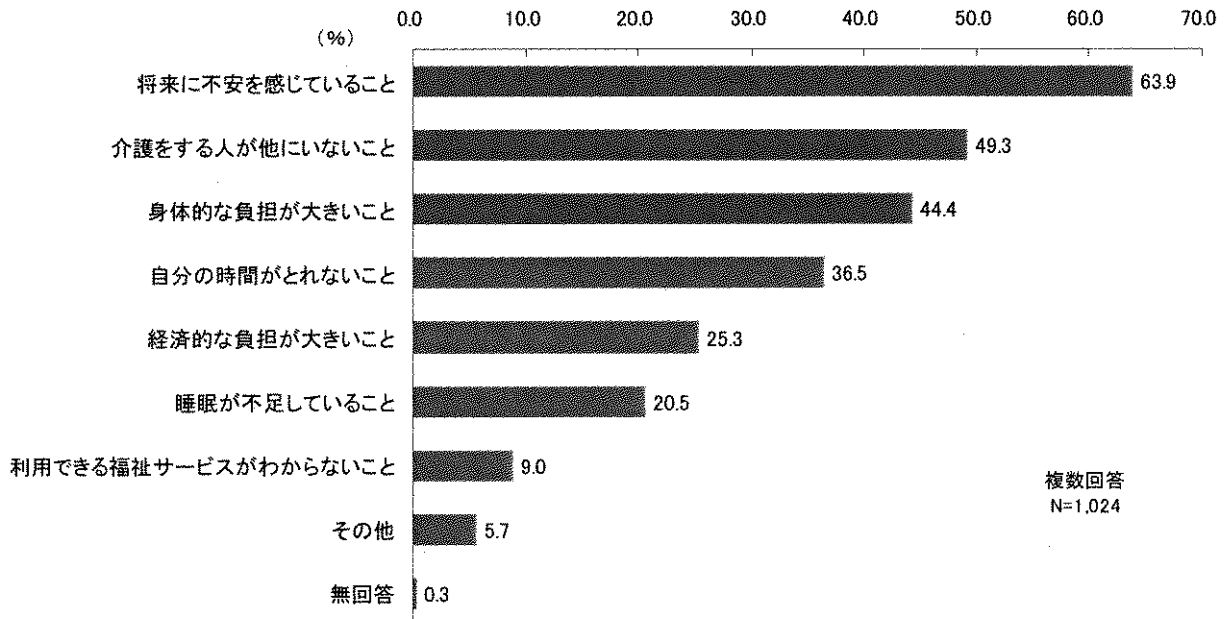


【 図 2-26 介護をするうえで困っていること 】



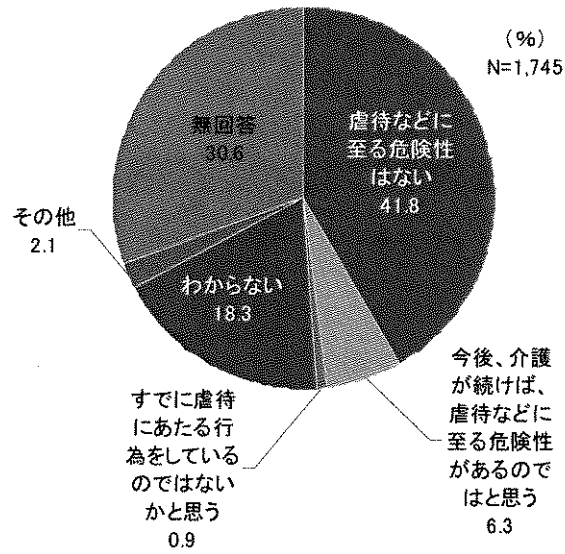
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-27 困っていることの内容 】



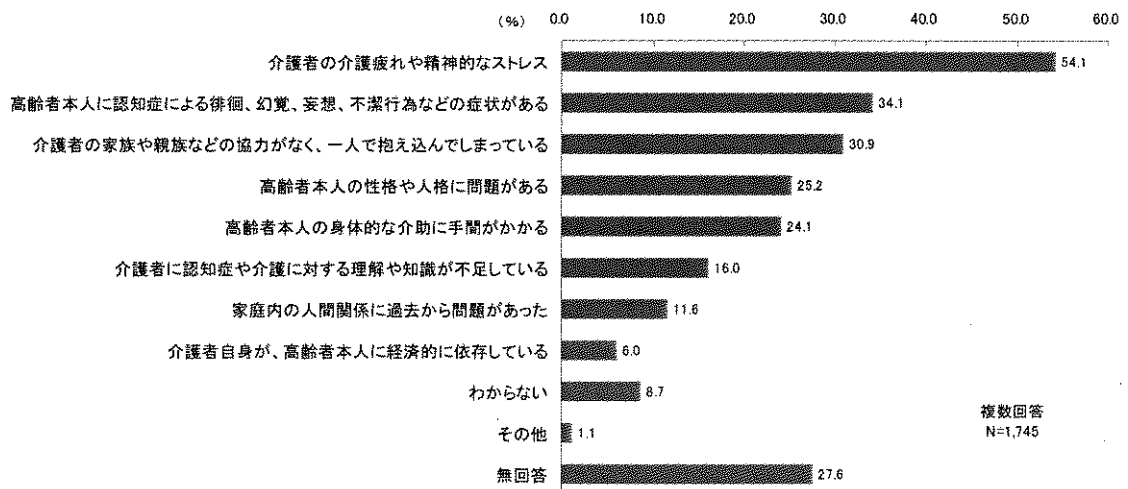
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-28 虐待に至る危険性について 】



【出所】平成 22 年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-29 虐待に至る要因として考えられること 】



【出所】平成 22 年度 北九州市高齢者実態調査

## 7 介護保険制度について

### (1) 要介護認定者数と出現率の推移

本市の要介護認定者数（要支援含む）は、平成12年4月末に約2万4千人でしたが、平成23年3月末には約5万2千人に増加しています。

また、出現率（65歳以上の被保険者に占める要介護認定者の割合）は、全国平均を上回る状況で推移しています。

【 図2-30 要介護認定者数と出現率の推移 】

### (2) 要介護度分布の状況

本市の要支援1から要介護2までの比較的軽度の認定者は、全国平均を上回っており、軽度の認定者の割合が高い傾向にあります。

【 表2-31 要介護度分布の全国との比較 】

【 図2-32 要介護度分布の全国との比較（平成22年3月） 】

### (3) 介護保険サービス利用者数の推移

介護保険のサービス利用者は、平成18年4月以降、一旦は減少しましたが、平成19年4月より再び増加しており、平成23年3月の在宅サービス利用者数は約32,000人、施設サービス利用者数は約7,300人となっています。

【 表2-33 サービス利用者数（実人員）の推移 】

【 図2-34 サービス利用者数と受給率※の推移 】

### (4) 介護保険のサービス利用による生活利便の変化

「平成22年度北九州市高齢者等実態調査」において、要介護認定を受けている在宅高齢者に、介護保険のサービス利用による生活のしやすさの変化について尋ねたところ、「十分しやすくなった」「どちらかといえばしやすくなった」と回答した人があわせて8割以上に達しています。

【 図2-35 介護サービスの利用による生活利便の変化 】

### (5) 介護保険制度の評価

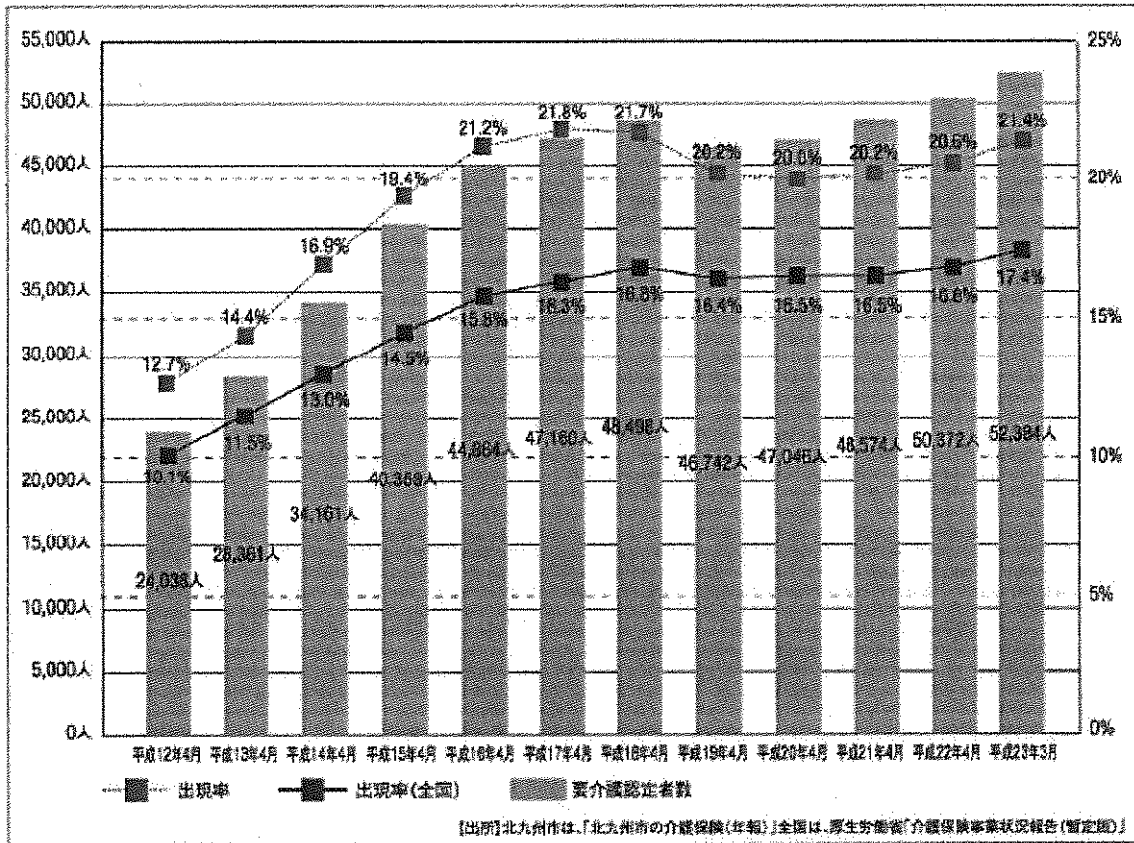
介護保険制度について「よいと思う」、「おおむねよいと思う」と制度を評価している割合は7割を超えており、特に在宅高齢者では8割と高くなっています。

一方で、介護保険のサービスと保険料負担の考え方については、回答にばらつきがみられます。

【 図 2-36 介護保険制度の評価 】

【 図 2-37 介護保険料の負担に対する考え方 】

【 図 2-30 要介護認定者数と出現率の推移 】



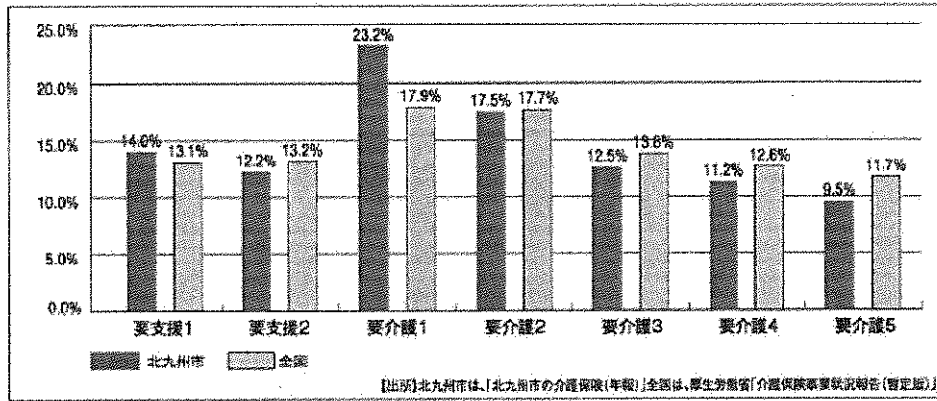
【 表 2-31 要介護度分布の全国との比較 】

	北九州市		全国	
	平成22年9月	平成23年3月	平成22年9月	平成23年3月
要支援1	7,087人 (13.8%)	7,335人 (14.0%)	646,281人 (13.0%)	663,343人 (13.1%)
要支援2	6,295人 (12.2%)	6,404人 (12.2%)	655,822人 (13.2%)	667,676人 (13.2%)
要介護1	11,761人 (22.8%)	12,153人 (23.2%)	886,016人 (17.8%)	906,460人 (17.9%)
要介護2	9,060人 (17.6%)	9,145人 (17.5%)	874,017人 (17.5%)	895,930人 (17.7%)
要介護3	6,488人 (12.6%)	6,522人 (12.5%)	701,504人 (14.1%)	697,385人 (13.8%)
要介護4	5,847人 (11.4%)	5,843人 (11.2%)	634,055人 (12.7%)	637,319人 (12.6%)
要介護5	4,935人 (9.6%)	4,982人 (9.5%)	582,900人 (11.7%)	591,177人 (11.7%)
合計	51,473人 (100.0%)	52,384人 (100.0%)	4,980,595人 (100.0%)	5,059,290人 (100.0%)
第1号被保険者	244,579人	244,674人	29,057,614人	29,077,439人
(伸び)	1.00		1.00	
第1号被保険者に占める割合(出現率)	21.0%	21.4%	17.1%	17.4%
(伸び)	1.02		1.01	

【出所】北九州市は、「北九州市の介護保険(年報)」全国は、厚生労働省「介護保険事業状況報告(暫定版)」



【 図 2-32 要介護度分布の全国との比較（平成 22 年 3 月） 】



【 表 2-33 サービス利用者数（実人員）の推移 】

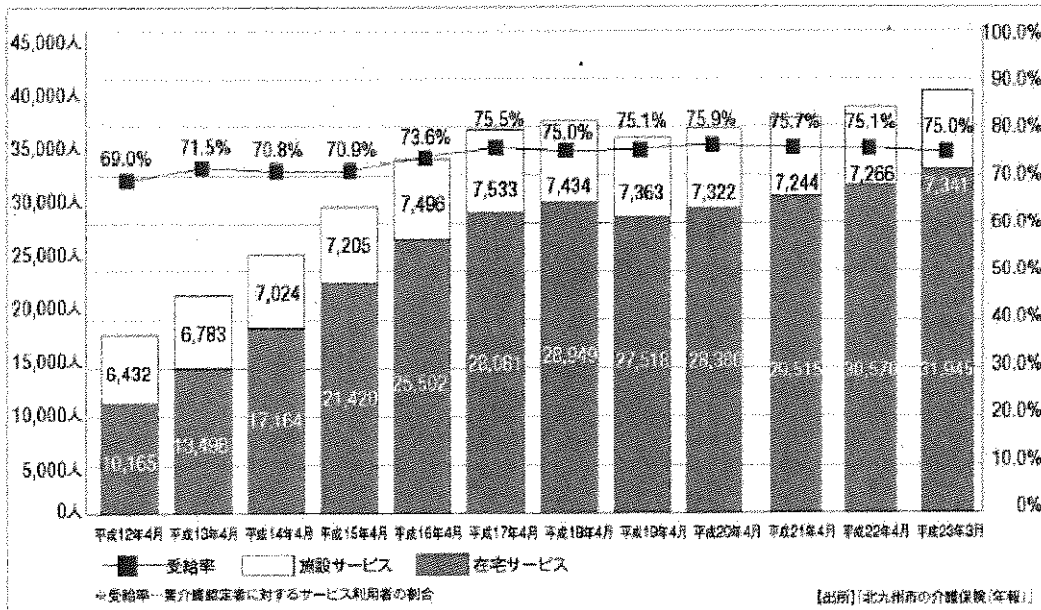
	平成12年4月	平成13年4月	平成14年4月	平成15年4月	平成16年4月	平成17年4月
第1被保険者	190,002人	196,608人	202,609人	208,206人	211,937人	216,798人
サービス利用者数	16,597人 (8.7%)	20,261人 (10.7%)	24,166人 (12.7%)	28,625人 (15.1%)	32,998人 (17.4%)	35,614人 (18.7%)
在宅サービス	10,165人 (5.3%)	13,498人 (7.1%)	17,164人 (9.0%)	21,420人 (11.3%)	25,502人 (13.4%)	28,081人 (14.8%)
施設サービス	6,432人 (3.4%)	6,763人 (3.6%)	7,024人 (3.7%)	7,205人 (3.8%)	7,496人 (3.9%)	7,533人 (4.0%)

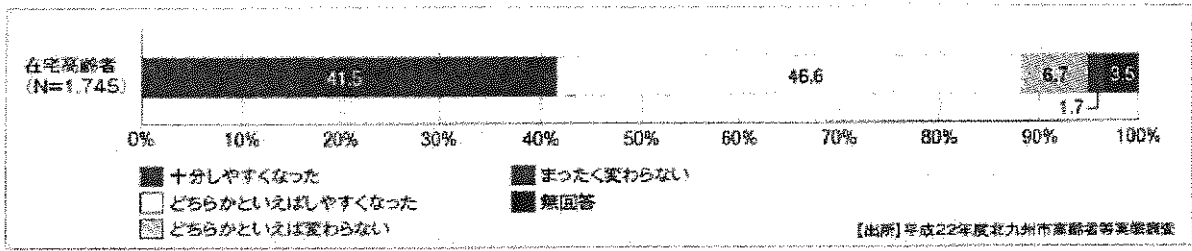
	平成18年4月	平成19年4月	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	平成23年3月
第1被保険者	223,313人	229,852人	235,227人	240,711人	244,138人	244,674人
サービス利用者数	36,383人 (19.1%)	34,861人 (18.4%)	35,702人 (15.2%)	36,759人 (15.3%)	37,836人 (15.5%)	39,286人 (16.1%)
在宅サービス	28,949人 (15.2%)	27,518人 (14.5%)	28,380人 (9.5%)	29,515人 (80.3%)	30,570人 (80.8%)	31,945人 (81.3%)
施設サービス	7,434人 (3.9%)	7,363人 (3.9%)	7,322人 (20.5%)	7,244人 (19.7%)	7,266人 (19.2%)	7,341人 (16.7%)

【出所】「北海州市の介護保険(年報)」 ※( )内は、第1号被保険者に対する割合

【 図 2-34 サービス利用者数と受給率※の推移 】

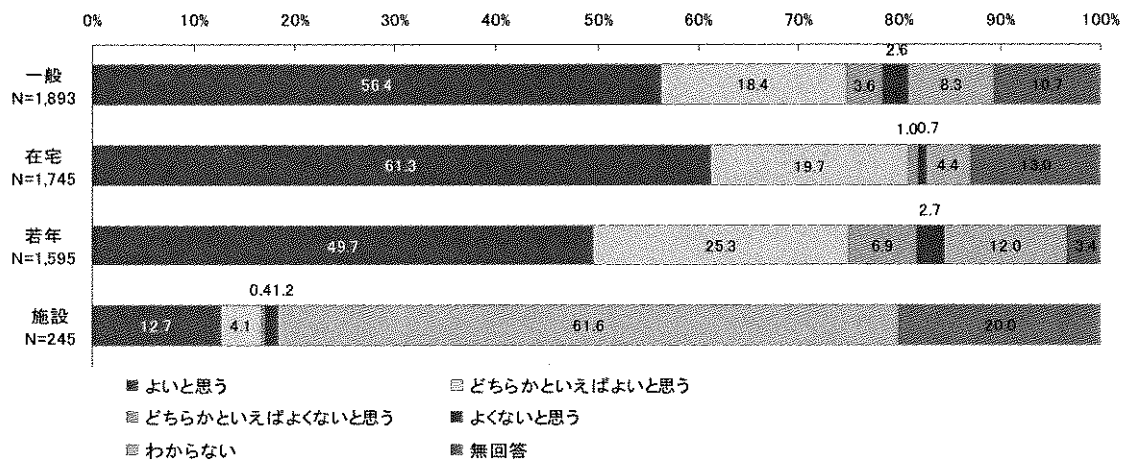


【 図 2-35 介護サービスの利用による生活利便の変化 】



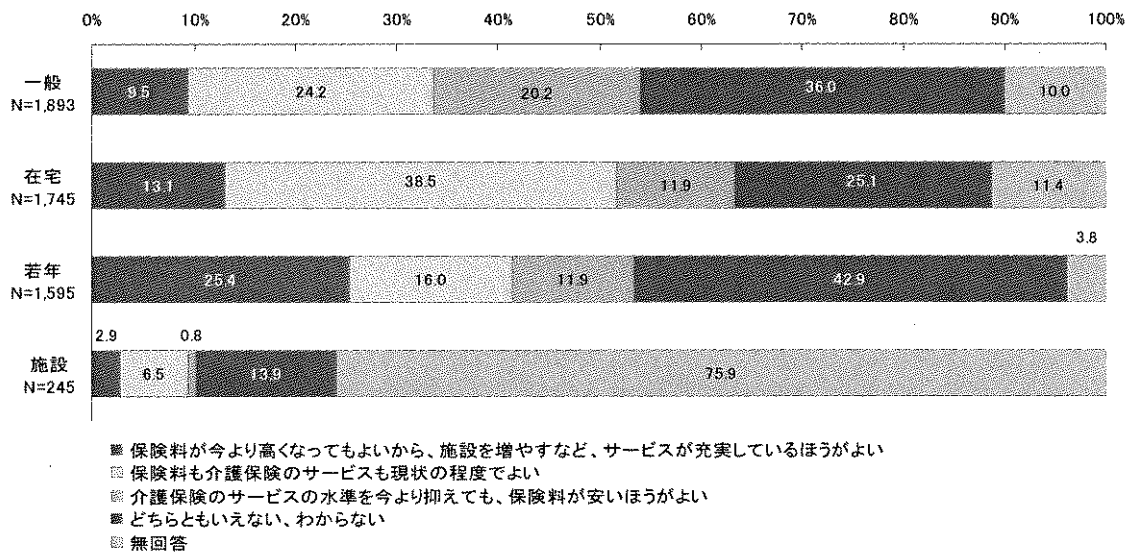
【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-36 介護保険制度の評価 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査

【 図 2-37 介護保険料の負担に対する考え方 】



【出所】平成22年度 北九州市高齢者実態調査